

平成 30 年 9 月 13 日

一般社団法人  
日本病院前救急救命学会理事長 様

将来構想検討委員会委員長

### 将来検討委員会報告書

日本病院前救急救命学会将来構想検討委員会は、学会理事長から学会会員を増やすための魅力ある学会作りと救急現場学構築のため、今後の運営構想について検討を行うよう指示を受け、幹事および有志会員により平成 29 年 9 月に委員会を設置した。

委員会では、学問の確立を目指す段階を短期、中期、長期とし、それぞれの期に実施すべき項目をあげ、各項目を担当するに相応しいと考えられる委員会に対し運営方向素案として提示することとした。

基本的には、会員の多くが共に研究を実施することで目指すべき救急現場学という学問が確立され、多くの救急救命士が参画するものであると信じている。

一方で救急救命士の多くは、研究などを行う上で倫理問題等について指導助言を受ける環境にないことから、学会として倫理委員会の設置についても早急に検討が必要である。

今回の報告書は、現時点における委員会報告書であり、委員からは「将来構想は、本会活動の骨子となる内容であることから、将来的には、他の委員会の代表により構成することが必要である」との意見も上がっており、早期に検討を行うべきである。

また、日々進化する病院前救急救命の現場を考えると、数年後には、構想の見直しを実施しなければならないと考える。

### 記

#### ○短期目標（5 年以内）

おおむね 5 年以内を目標に実施・検討を行う項目とする。

##### 1. 学術集会の単独開催（担当：将来検討委員会（仮称））

現在の学術集会は、日本臨床救急医学会と併設で開催を実施しているが、単独で開催することを目標として、コンセンサスを得た。

##### 2. 学会誌の発刊（担当：編集委員会）

学会誌の発刊については、学会独自の発信が必要との意見で合致した。発刊の媒体（紙ベース・WEB 版）の議論については、編集委員会に委ねたい。

##### 3. 広報活動の強化（担当：広報委員会）

現在実施している広報を更に充実させる方法を検討し実施する必要があるとの結論となった。例えばSNSを活用した会員サイトを作成し会員の声を聴くことのできる環境を整えるほかWEB勉強会などの提供についても提案があった。他の委員会との協労となる部分もあるが、広報委員会が主体となり検討を行うことが望ましい。

4. 学会主催セミナーの開催（担当：教育研修委員会）

学会が独自でセミナーを開催することについて検討を実施した。短時間にコミュニケーションを確立させるためのセミナーなどが提案されたが、内容については、教育研修委員会が主体となって検討を行う。

5. 倫理委員会の設置（担当：理事会）

学会が主体となって研究を実施する場合に倫理的問題が出た場合の検討委員会が現状存在しない。また、消防の現場においても倫理についての検討が進んでいない現状が垣間見える。それらの一助となるためにも当学会において倫理委員会の設置について理事会での検討を行う。

○中期目標（10年以内）

1. 日本蘇生協議会（JRC）への加入（担当：理事会）

救急救命士が提供できるデータの収集と分析に寄与できることが強みの一つであることから、権威ある日本蘇生協議会に加入し蘇生協議の一助になれる。

2. 会員種別に学生会員枠を設ける（担当：理事会）

学生会員枠の要望があることが委員から提起され検討を行った。現学会は、正規会員の充実を最優先としているが、学会活動を活発にするために有用と考えられることから検討が必要であると結論付けた。なお、学生会員を募集するにあたっては、学生のしっかりとした受け皿になりえるだけの活動を行っている必要があることから中期目標とした。

3. 他国との学会連携（担当：国際委員会）

すでに他国との個人的連携を持つ委員から国際的なつながりも必要であるとの提案から検討を行った。日本国内での学会充実を最優先とし、平行して他国との情報共有等を図り学術連携を模索しつつ、中期でのフォーマルな提携等を目標とした。

4. 教育コースの開催（担当：教育研修委員会）

救急隊員の現場教育コースを構築し、多くの人に受講を頂けるようなコース開催を目指したいとの検討結果。教育研修委員会での検討を行うことが望ましい。

5. メディカルラリー開催（教育研修委員会）

すでに多くの地域で開催を実施しているものである。開催の是非、実施する場合の規模も含めて教育研修委員会での検討を行うことが望ましい。

## 6. 学会員の研究サポート

日本全国に多くの救急救命士がいるが、研究テーマを考え研究をしようという思いがあっても、初めての研究となると、不明なことが多すぎて挫折してしまうことがあるとの検討から、学会として会員が行う学術研究のサポート体制を整備することが有用であるとの結論となった。教育研修委員会での検討を行うことが望ましい。

### ○長期目標

#### 国への提言、研究助成制度等

設立時に総務省消防庁と厚生労働省に対して、救急現場における学問を構築することを目的として設立した学会であることを説明している。その際、国の行政機関とも連携が持てることがあれば協労していくとの意向を確認していることから、国が必要とする研究の一助になる活動についても長期目標として視野にいれておくべきとの検討結果であった。

検討を行う上で、短期、中期、長期の区分を用いて目標検討を行った。当然、時代変遷によっては早く実施しなければいけない項目となることも想定される。

こうしたことも視野にいれながら学会活動への取り組みを行ない、計画を柔軟にローリングさせることのできる組織体制が重要である。

将来構想検討委員会については、一旦解散となるが、改めて理事会が将来検討委員会（仮称）を設置することを提案する。その際の委員構成については、学会における各委員会の代表者で構成し、学会が進む舵取りを担うこととなるように提言をしたい。

最後に8回のWEB会議を実施し検討を重ねた報告書であることを申し添えます。

#### 【委員長】

脇田 佳典

#### 【副委員長】

原 貴大、吉井 克昌

#### 【委員】

喜熨斗智也、中川 貴仁、西岡 和男、松浦 治人、山内 一